

医療被ばく研究情報ネットワーク
第三回全体会議 議事次第

日 時 : 2012年4月14日(土) 16:00~17:30

場 所 : パシフィコ横浜 国立大ホール N101

参加予定者 : (資料9参照)

議 題 :

1. 議事録確認
2. 規約案
3. 活動報告
4. 今年度活動計画
5. ワーキンググループ
6. 各学会報告
7. 国際動向
8. 福島対応
9. その他

配付資料 :

1. 第二回全体会議議事録
2. 規約案
3. 活動報告
4. 今年度活動計画
5. ワーキンググループ
6. 各学会報告
7. 国際動向
8. 福島対応
9. 参加予定者

1. 医療被ばく研究情報ネットワーク
第二回全体会議 議事録

1. 日 時 : 2011年9月3日(土) 10:30~12:30
2. 場 所 : ベルサール八重洲 Room 3 (東京)
3. 参加者 : (別添)

4. 議題

- (1) 議事録確認
- (2) 活動報告
- (3) 医療被ばくに関する国際動向
- (4) 医療被ばくに関する国内動向
- (5) 医療被ばくに関する研究情報
- (6) 福島第一原子力発電所事故について
- (7) ダイアログセミナー
- (8) 組織体制
- (9) 今後の活動計画
- (10) その他

5. 配付資料

- (1) 第一回全体会議議事録
- (2) 活動報告
- (3) 医療被ばくに関する国際動向
- (4) 医療被ばくに関する国内動向
- (5) 医療被ばくに関する研究情報
- (6) 福島第一原子力発電所事故について
- (7) ダイアログセミナー
- (8) 参加予定者及び J-RIME 会員リスト
- (9) 今後の活動計画
- (10) ニュースレター「らいむらいと」

6. 議事

(1) 第一回全体会議議事録

第一回全体会議の議事録が確認された。

(2) 活動報告

JRC2011 期間中に、WHO Global Initiative 担当の Dr. Perez と IRQN の Dr. Lau をお迎えし、第二回全体会議を開催する予定であったが、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の影響で JRC2011 自体が開催取りやめとなり、J-RIME の第二回全体会議も延期され、9月3日に開催となった次第が説明された。

情報共有については、メーリングリストに IAEA の RPOP の情報を流していること、放医研のウェブに J-RIME のホームページを作成中であることが報告された。

サブグループ活動では、小児の医療被ばくのグループ活動として、国立成育医療研究センター・千葉こども病院・放医研が協力して小児放射線診療の実態調査・線量評価の計画が策定中であることが報告された。

その他、ニュースレターの「らいむらいと」を4月に発刊し、付けられていた J-RIME 参加申込書により2名の個人参加があったことが報告された。

(3) 医療被ばくに関する国際動向

ICRP の動向について、第三専門委員会委員の米倉先生より報告があった。現在、重粒子線治療・陽子線治療の防護ドキュメント作成作業が行われており、希望があればドラフトを送付するとのことであった。10月には、ICRP シンポジウム “The first ICRP Symposium on the International System of Radiological Protection” が開催される予定であることが紹介された。

UNSCEAR については、UNSCEAR 2008 報告書下巻が出たこと、2010 REPORT “Summary of low-dose radiation effects on health” がダウンロード可能になっていることが紹介された。米倉理事長より、5月に開催された会合について報告があった。福島事故対応の議論がなされ、2年後を目処に報告書を取りまとめる計画であること、現在4つの専門グループからなるワーキンググループが作られ、日本から一名ずつリーダーを務めることが紹介された。

IAEA について、Smart Card/SmartRadTrack project の状況が紹介された。Paper “M. M. Rehani, D. P. Frush. Patient Exposure Tracking: The IAEA Smart Card

Project, Radiat. Prot. Dosim. 2011.” が掲載されたことと、BSS の改訂作業の報告があった。被ばく線量の記録に関し、本田先生から、カリフォルニアにおける Dose Record の計画について紹介があった。JIRA の伊藤氏から、RSNA の際の CT の会議で、カリフォルニアの取り組みの第二回会合があったことが報告された。佐々木先生からは、米国では患者の被ばくを少なくする目的で、画像を共有するというシステムが計画されている旨が紹介された。IAEA の BSS については、米原先生から、改訂にあたり水晶体の限度が問題とされ、それを盛り込むという話があり、意見募集が 3 月末まで行われることが報告された。ガイダンスレベルについては、今回具体的数値は規定されないということであった。その後、本田先生から IHE の紹介があった。

WHO については、WHO Global Initiative on Radiation Safety in Healthcare Setting について、Dr. Lawrence Lau から頂いた情報が紹介された。JRC2011 では WHO GI 担当の Dr. Perez が合同シンポジウムで発表、IRQN の Dr. Lau は同時期に来日されることが予定されていたが中止になった旨が報告された。宮寄先生からは、リフェラルガイドラインに関するミーティングの報告があり、現在関係者間で意見をやりとりしているとのことであった。伴先生からは、2009 年秋の IAEA のワークショップで、IAEA としては診断参考レベルが浸透したので次は正当化という認識であること、英国をコアにした EC 主導で、他国も意見を出していく必要性が述べられた。米倉先生からは、ICRP 第三委員会でも正当化に正面から取り組むことを議論している旨が紹介された。

(4) 医療被ばくに関する国内動向

本田先生より、日本核医学会で基準を作ったことと、市立甲府病院における小児患者への過剰投与についての報告があった。最適化が問題であり、日本核医学会は声明を出したことが報告された。北村先生から、日本放射線技師会が認定事業を継続して行っていること、ホームページに取り上げており、投与基準を把握することとしている旨が報告された。細野先生からは、外部被ばくでも同様のことが起こり得ること、線量と画質をコントロールする仕組みが必要であることが述べられた。菊地先生から、3 月 11 日以降、風評被害で検査に支障が生じており、オールジャパンで対応していかなければならないとの意見が出された。正木先生からは、小児患者のデータのデータベース化に関する議論が行われていることが紹介された。

(5) 医療被ばくの研究情報

放射線診療における施設・機器・頻度・被ばく線量など各分野の学会および専門家が有している研究情報を一元化し共有することが求められている。第一回全体会議では、J-RIME メンバーが保有する情報を調査することから始めることが事務局から提案され、了承されているが、福島の影響で未だ実施に至っていないことが報告された。現時点の調査案として、対等と方法について項目などが報告された。

(6) 福島第一原子力発電所事故について

北村先生より、日本放射線技師会として、3月の事故後すぐに技師を派遣し、サーベイメータの測定等を行ったこと、厚労省の要請で作業者の汚染状況の測定を行ったことなどが報告された。医療被ばくに関すること、J-RIME としての取り組みなどについて、意見交換がなされた。

(7) 今後の活動計画について

組織形態について、規程等が未整備であることから、早急に規程作成を進め、J-RIME として意思決定する具体的手順（J-RIME としての決議、共催等の承認手続きなども含む）を検討することとした。また、新規のサブグループとして、IAEA Smart Card/SmartRadTrack project に対する検討を行う「IAEA 対応サブグループ」と、既存の医療被ばく研究情報データを収集・整理し、新規の医療被ばくの実態関連データの収集を検討するための「被ばくデータサブグループ」を置く旨が提案され、了承された。

活動内容として、第三回全体会議開催について検討することと、必要に応じて適宜サブグループ会議を開催することが出され、了承された。情報交換・収集・蓄積については、メーリングリストを情報共有のためのリストと、事務的な伝達を行うリストに分けることが検討されている旨報告があった。また、ウェブが構築中であることが報告された。

国際対応では、WHO GI のリスクアセスメント対応として小児被ばく評価 G が活動していること、IAEA・ICRP に対しては必要な場合にデータを提供していくこと、UNSCEAR ではサーベイに協力していくことが出され、了承された。研究活動については、公的研究資金への応募も視野に入れた情報収集に関する研

究グループ組織作りと、IAEA 対応の研究グループ作りが提案され、了承された。

活動スケジュールとして、ホームページ構築・公開を急ぐこと、2012年2月頃の第三回会議開催を予定していること、2011年末までにサブグループ作成に取り組むこと、適宜サブグループ会議を開催すること、医療被ばく研究情報に関するシンポジウムを東京で開催することを検討することとした。

参加者（一部オブザーバ参加）

近畿大学：	細野 眞 教授
岡山大学：	清 哲朗 先生（元厚労省医政局指導課）
大分県立看護科学大学：	甲斐倫明 教授（ICRP第4委員会委員）
東京医療保健大学：	伴 信彦 教授（UNSCEAR国内対応委員会委員）
国立保健医療科学院：	山口一郎 先生
日本放射線技師会：	北村善明 常務理事 諸澄邦彦 医療被ばく安全管理委員会委員長
日本医学放射線学会：	放射線防護委員会委員 宮寄 治 先生
日本放射線技術学会：	赤羽恵一（防護分科会委員）
日本核医学会：	放射線防護委員会委員長 本田憲業 先生
日本放射線腫瘍学会：	正木英一 先生
日本放射線影響学会：	宮川 清 先生
日本小児放射線学会：	宮寄 治 先生
日本歯科放射線学会：	防護委員会委員 岩井一男 先生
日本医学物理学会：	防護委員会 西川慶一 先生
日本核医学技術学会：	渡邊 浩 理事長
医療放射線防護連絡協議会：	佐々木康人 会長 菊地 透 総務理事
日本画像医療システム工業会：	岩永明男 専務理事 西村正俊 産業戦略室 専任部長 伊藤友洋 線量WG（放射線・線量委員会予定）
放射線医学総合研究所	米倉義晴 理事長 放射線防護研究センター

酒井一夫・米原英典・吉永信治・神田玲子
重粒子医科学センター
神立 進・米内俊祐
分子イメージング研究センター
栗原千絵子
医療被ばく研究プロジェクト
島田義也・赤羽恵一

医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）規約（案）v4

第 1 章 総則

（名称）

第 1 条 本組織は、医療被ばく研究情報ネットワークと称する。その英文名は、Japan Network for Research and Information on Medical Exposures（略称 J-RIME）とする。

第 2 章 目的及び事業

（目的）

第 2 条 医療被ばくの実態及び医療放射線防護に関連ある研究情報の収集及び共有化をはかり、国内外の医療被ばく研究の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第 3 条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）総会、研究会等の開催
- （2）医療被ばく関連の研究情報の収集・共有・公開に関すること
- （3）医療被ばく関連の国際機関への対応に関すること。
- （4）機関誌の刊行
- （5）国内外の関連学協会及び団体との協力及び連携活動
- （6）その他、この組織の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会員

（構成員）

第 4 条 この組織に、次の会員を置く。

- （1）団体会員 この組織の目的に賛同し、この組織の対象とする領域において専門の学識、技術又は経験を有する団体

(2) 個人会員 この組織の目的に賛同し、この組織の対象とする領域において専門の学識、技術又は経験を有する者

(会員資格の取得)

第5条 この組織の目的に賛同する団体又は個人は、総会における承認により、会員資格を得る。

(会員資格の喪失)

第6条 会員は、次のいずれかに該当するときは、その資格を喪失する。

(1) 退会したとき。

(2) 当該会員の団体が解散し、又は個人が死亡した時。

(3) 総会で決議されたとき。

第4章 役員、運営

(役員)

第7条 この組織に、代表1名を置く。

(役員を選任)

第8条 代表は総会において選出される。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

(ワーキンググループ)

第10条 この組織の事業を実施するために、ワーキンググループを設置できる。

(事務局)

第11条 本組織の事務局を放射線医学総合研究所内に置く。

第5章 総会

(構成)

第12条 総会は、すべての会員をもって構成する。

2 代表は必要に応じて、この組織の目的に賛同し、この組織の対象とする領域において専門の学識、技術又は経験を有する、会員でない者又は団体に、出席を依頼できる。

(開催)

第13条 総会は、定時総会として事業年内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第14条 総会は、代表が招集する。

2 会員は、代表に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

第6章 その他

(規約の変更)

第15条 この規約は、総会の決議によって変更することができる。

3. 活動報告

3.1. 会議

3.1.1. 第三回全体会議

2011 年度内開催が予定されていたが、JRC2012 期間中開催にし、多数のオブザーバ参加により、広く議論する場を設けることとし、4 月 14 日の開催となった。

3.1.2. メーリングリスト

IAEA の RPOP などの情報を、メーリングリストに随時流している。

- ・ IAEA RPOP ～ No. 59
- ・ 2010 年 9 にブルガリアで開催された International Conference on Radiation Protection in Medicine の papers が Radiation Protection Dosimetry に掲載され、11 月 7 日から一ヶ月間フリーでダウンロード可能に。
- ・ J-RIME ニュースレター「らいむらいと」第 2 号が発行。
- ・ 日本医学物理学会 (JSMP) のウェブに、会員向け (関係者向け) の詳細解説情報として、「医療被ばく関連の解説」と「職業被ばく防護について」が掲載された。

3.1.3. ホームページ

放医研のウェブに J-RIME ホームページを作成中である。

コンテンツ案

<トップページ>

<バナー左>

会の概要

代表挨拶

定款・規約

組織・役員

市民の皆様へ

医療関係の皆様へ

<バナー右>

事務局・連絡先

入会案内
機関誌：らいむらいと
会員の皆様へ
リンク集
<トップページ中央>
お知らせ
更新情報

3.2. サブグループ

小児の医療被ばくに関するサブグループ活動として、国立成育医療研究センターと放医研で、千葉子ども病院の協力も得て、小児の放射線診療の実態調査・線量評価の計画を共同で策定中である。

3.3. その他

3.3.1. ニュースレター

ニュースレター「らいむらいと」第2号を12月に発刊した。

4. 今年度活動計画

4.1. 規約（案）の事業綱目

- (1) 総会、研究会等の開催
- (2) 医療被ばく関連の研究情報の収集・共有・公開に関すること
- (3) 医療被ばく関連の国際機関への対応に関すること
- (4) 機関誌の刊行
- (5) 国内外の関連学協会及び団体との協力及び連携活動
- (6) その他、この組織の目的を達成するために必要な事業

4.2. 総会、研究会等の開催

4.2.1. 総会

第一回：4月14日（土）16:00～17:30

第二回：10月頃

4.2.2. 研究会等

各ワーキンググループ主催のシンポジウムなど

Smart Card

小児防護

実態調査

国際動向

4.3. 医療被ばく関連の研究情報の収集・共有・公開に関すること

4.3.1. ワーキンググループ設置（5月）

◎Smart Card WG

患者の放射線診療履歴追跡システム構築に関する検討

◎小児防護 WG

小児放射線診療における防護に関する検討

◎実態調査 WG

国内の放射線診療実態の調査に関する検討と実施

◎広報 WG

J-RIME Web の維持管理

4.3.2. データベース作成

ウェブと統合

4.3.3. ウェブ作成 (4月)

広報 WG

4.3.4. メーリングリスト (随時)

継続して情報を提供

広報 WG

4.4. 医療被ばく関連の国際機関への対応に関すること。

4.4.1. 情報共有

ICRP 等国際機関の動向について、情報を集約：ウェブやメーリングリストで情報共有する (広報 WG 中心)

4.4.2. 情報提供

国内の医療被ばく研究情報を集約し、UNSCEAR 等に提供可能にする (実態調査 WG 中心)

4.5. 機関誌の刊行

「らいむらいと」年2回発行 (広報 WG 中心)

4.6. 国内外の関連学協会及び団体との協力及び連携活動

シンポジウム等の開催 (各 WG、広報 WG)

4.7. その他、この組織の目的を達成するために必要な事業

5. ワーキンググループ

5.1. 小児防護 WG

- ・ 小児放射線診療における実態と線量を把握するための活動グループ
- ・ メンバー：宮寄 治 先生（国立成育医療研究センター） リーダー
正木英一 先生（国立成育医療研究センター）
島田義也 （放射線医学総合研究所）
赤羽恵一 （放射線医学総合研究所）
他の学協会からのメンバー複数名

5.2. Smart Card WG

- ・ 患者の被ばく履歴追跡システム構築を検討するための活動グループ
- ・ メンバー：島田義也 （放射線医学総合研究所） リーダー
赤羽恵一 （放射線医学総合研究所）
奥田保男 （放射線医学総合研究所）
他の学協会からのメンバー複数名

5.3. 実態調査 WG

- ・ 国内の放射線診療の実態調査のための活動グループ
- ・ メンバー：赤羽恵一 （放射線医学総合研究所） リーダー
山口一郎 先生（国立保健医療科学院）
他の学協会からのメンバー複数名

5.4. 広報 WG

- ・ J-RIME 広報のための活動グループ
- ・ メンバー：（ ） リーダー
唐澤久美子 （放射線医学総合研究所）
他の学協会からのメンバー複数名

6. 各学会報告

6. 1. 学会報告

6. 1. 1. 関連学会（五十音順）

- ・ 日本医学放射線学会
- ・ 日本医学物理学会
- ・ 日本核医学会
- ・ 日本核医学技術学会
- ・ 日本歯科放射線学会
- ・ 日本小児放射線学会
- ・ 日本放射線影響学会
- ・ 日本放射線技術学会
- ・ 日本放射線腫瘍学会

6. 1. 2. 関連団体（五十音順）

- ・ 医療放射線防護連絡協議会
- ・ 日本画像医療システム工業会
- ・ 日本放射線技師会

7. 国際動向

7.1. ICRP

- ・ security check による被ばくのリスクの報告
パブコメにかけるか否か
- ・ 第三委員会：新規 Task Group
 - ・ TG 85 on Practical Radiological Protection Recommendations on Mitigating Secondary Cancer Risks in Modern Radiation Oncology, chaired by Mario Baeza (ICRP ref 4825-9655-0158)
 - ・ TG 86 on Justification in Imaging of Asymptomatic Individuals with Ionising Radiation, co-chaired by Katrine Åhlström Riklund and Hans Ringertz (ICRP ref 4825-1266-4078)
 - ・ TG 87 on Radiological Protection in Ion Beam Radiotherapy, chaired by Yoshiharu Yonekura (ICRP ref 4825-7977-2942)
 - ・ TG 88 on Radiological Protection in Cone Beam CT, chaired by Madan Rehani (ICRP ref 4825-6299-5726)
 - ・ TG 89 on Occupational Radiological Protection in Brachytherapy, chaired by Lawrence Dauer (ICRP ref 4825-4621-8510)

7.2. UNSCEAR

- ・ 福島原子力事故報告

7.3. IAEA

- ・ Smart Card/SmartRadTrack project に関する会議：Joint position statement (WHO、EC、IHE、IOMP、ISR、ISRRT、FDA)
- ・ BSS 改訂

7.4. WHO

7.5 その他

8. 福島対応

8.1. 今後の取り組み

- ・ J-RIME としての対応
 - 何が必要か
 - 何ができるか
 - どのように行うか
- ・ 医療被ばくの扱い
- ・ 情報集約
- ・ 国際対応

9. 参加予定者（一部オブザーバ参加）

文部科学省：	永田充生 様（放射線安全企画官）
大分県立看護科学大学：	小野孝二 先生
東京医療保健大学：	伴 信彦 先生（UNSCEAR国内対応委員会委員）
国立保健医療科学院：	樺田尚樹 先生・山口一郎 先生
日本放射線技師会：	北村善明 先生（常務理事：調整中）
日本医学放射線学会：	中村仁信 先生（放射線防護委員会委員長）
日本放射線技術学会：	竹井泰孝 先生・藤淵俊王 先生 （防護分科会委員）
日本核医学会：	本田憲業 先生（放射線防護委員会委員長）
日本放射線腫瘍学会：	伊丹 純 先生（医療安全委員会委員長）
日本放射線影響学会：	三浦雅彦 先生（学会幹事）
日本小児放射線学会：	宮寄 治 先生
日本歯科放射線学会：	岩井一男 先生（防護委員会委員）
日本医学物理学会：	西川慶一 先生（防護委員会委員）
日本核医学技術学会：	渡邊 浩 先生（理事長）
医療放射線防護連絡協議会：	大野和子 先生（理事、企画・実行委員長）
日本画像医療システム工業会：	岩永明男 専務理事 伊藤友洋 放射線・線量委員会委員長 古川 浩 様、大前徳宏 様
放射線医学総合研究所	米倉義晴 理事長 放射線防護研究センター 酒井一夫・米原英典・吉永信治・神田玲子 重粒子医科学センター 唐澤久美子・米内俊祐・奥田保男 神立 進・尾松徳彦・尾松美香 医療被ばく研究プロジェクト 島田義也・赤羽恵一・小原 哲・青天目州晶

10. J-RIME 会員リスト

10.1. 関連学会（五十音順）

日本医学放射線学会
日本医学物理学会
日本核医学会
日本核医学技術学会
日本歯科放射線学会
日本小児放射線学会
日本放射線影響学会
日本放射線技術学会
日本放射線腫瘍学会

10.2. 関連団体（五十音順）

医療放射線防護連絡協議会
日本画像医療システム工業会
日本放射線技師会
放射線医学総合研究所（事務局）

10.3. 国際機関関連参加者

○ICRP：

丹羽太貫 先生（京大名誉教授：ICRP 主委員会委員）
米倉義晴 理事長（放射線医学総合研究所：ICRP 第3専門委員会委員）
甲斐倫明 教授（大分看護科学大学：ICRP 第4専門委員会委員）
酒井一夫 センター長（放射線医学総合研究所：ICRP 第5専門委員会委員）

○WHO：

山下俊一 副学長（福島県立医科大学：元WHO職員）

○IAEA：

細野 眞 教授（近畿大学：IAEA Action Plan 参加）

○UNSCEAR：

伴 信彦 教授（東京医療保健大学：UNSCEAR国内対応委員会委員）

10.4. 専門家

○厚労行政：

清 哲朗 先生（岡山画像診断センター：元厚労省医政局指導課）

○厚労行政・研究：

樺田尚樹 先生 ・ 山口一郎 先生（国立保健医療科学院）

10.5. 行政機関（オブザーバ）

厚生労働省、文部科学省、原子力安全委員会